

せいしん「SDGs チャレンジ宣言」レポート

● はじめに

静清信用金庫は、SDGs の取組みを地域に普及・促進させることを目的に、2021 年 11 月 1 日(月)～2022 年 1 月 31 日(月)の期間で「せいしん創立 100 周年記念定期預金 サンクス 100Ⅱ～SDGs 応援定期預金～」を発売いたしました。また、SDGs 達成に向けた意識を更に高めることを目的に、同定期預金のご契約者の方々に「SDGs チャレンジ宣言」をご提出していただきました。

この「SDGs チャレンジ宣言」は、SDGs の 17 の目標の中から「既に取り組んでいる目標」「今後取り組みたい目標」等を記入していただく内容となっており、多くの方々の様々な取組みを窺うことができました。

今般、ご提出いただきました「SDGs チャレンジ宣言」の内容を取り纏め、以下の通りご報告させていただきます。

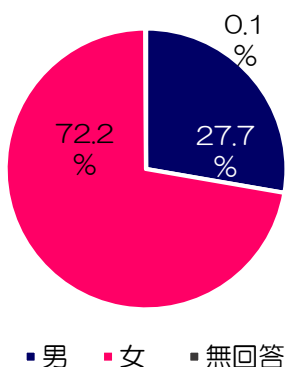
「SDGs チャレンジ宣言」調査概要

調査時期 2021 年 11 月 1 日(月)～2022 年 1 月 31 日(月)

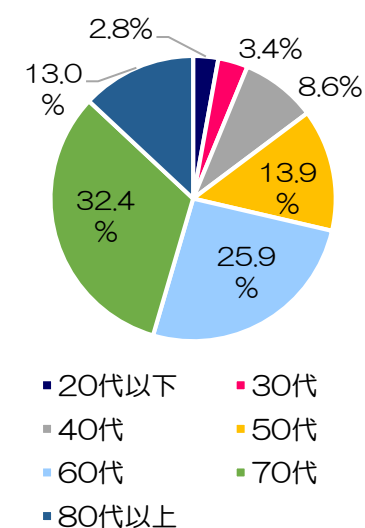
調査対象 「せいしん創立 100 周年記念定期預金 サンクス 100Ⅱ～SDGs 応援定期預金～」
をご契約いただいた方(個人)

回答者数 2,525 名 有効回答数 2,525 名 有効回答率 100.0%

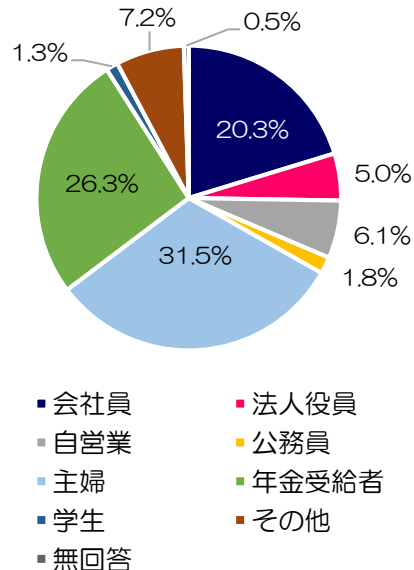
●性別内訳
n=2525



●年齢内訳
n=2525



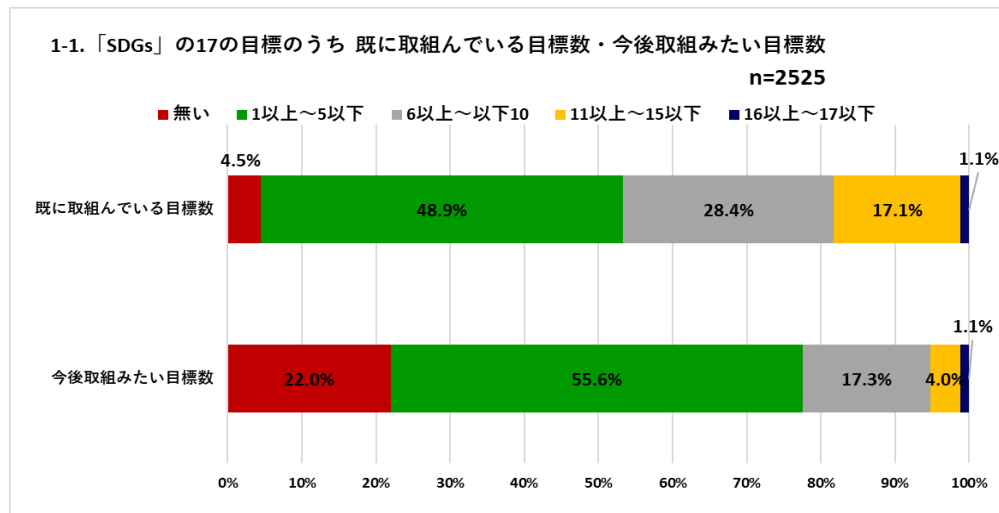
●職業内訳
n=2525



1. 全体における「SDGs の 17 の目標」について

(1)「既に取り組んでいる」または「今後取り組みたい」目標数

全体の 95.5%が「既に取り組んでいる目標」が 1 つ以上あり、
全体の 78.0%が「今後取り組みたい目標」が 1 つ以上ある。



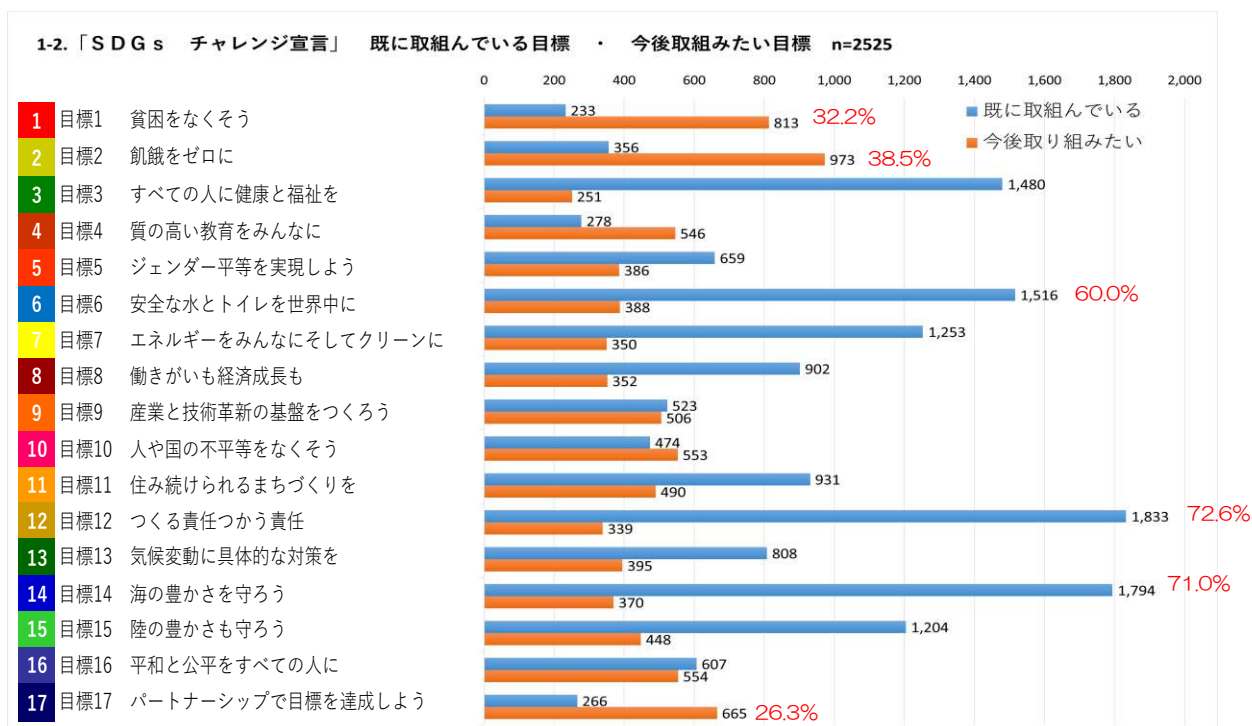
全体の 95.5%が 1 つ以上の目標に既に取り組んでおり、48.9%が「1 以上～5 以下」の目標に取り組んでいることが窺えます。また、全体の 78.0%が今後取り組みたい目標を 1 つ以上持っており、55.6%が、今後「1 以上～5 以下」の目標に取り組みたいとしています。

このことから、SDGs への取り組みに対する関心の高さが窺えます。

(2)「既に取り組んでいる」または「今後取り組みたい」目標

「既に取り組んでいる目標」は、「目標 12 つくる責任つかう責任」が最も多い。

「今後取り組みたい目標」は、「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多い。(複数回答)



【既に取り組んでいる目標 上位5位】

- 1位 目標 12 つくる責任つかう責任
- 2位 目標 14 海の豊かさを守ろう
- 3位 目標 6 安全な水とトイレを世界中に
- 4位 目標 3 すべての人に健康と福祉を
- 5位 目標 15 陸の豊かさを守ろう

【今後取組みたい目標 上位5位】

- 1位 目標 2 飢餓をゼロに
- 2位 目標 1 貧困をなくそう
- 3位 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう
- 4位 目標 10 人や国の不平等をなくそう
- 5位 目標 16 平和と公平をすべての人に

●「既に取り組んでいる目標」

「目標 12 つくる責任つかう責任」(1,833 人/72.6%)が最も多く、次いで「目標 14 海の豊かさを守ろう」(1,794 人/71.0%)、「目標 6 安全な水とトイレを世界中に」(1,516 人/60.0%)となりました。

当金庫は、令和元年 11 月～12 月にも「地域で取組んでいきたい SDGs の目標は何か」をお客さまにお聞きしていますが、その結果においても「目標 12」が取組んでいきたい目標として最も多く取り上げられました。前回および今回の結果からも「目標 12」に対する関心の高さが窺え、生産者と消費者の両者での取組みの重要性や、「つくる」「つかう」という具体的な行動に対しての責任について、多くの方が関心を寄せていることが分かります。

●「今後取組みたい目標」

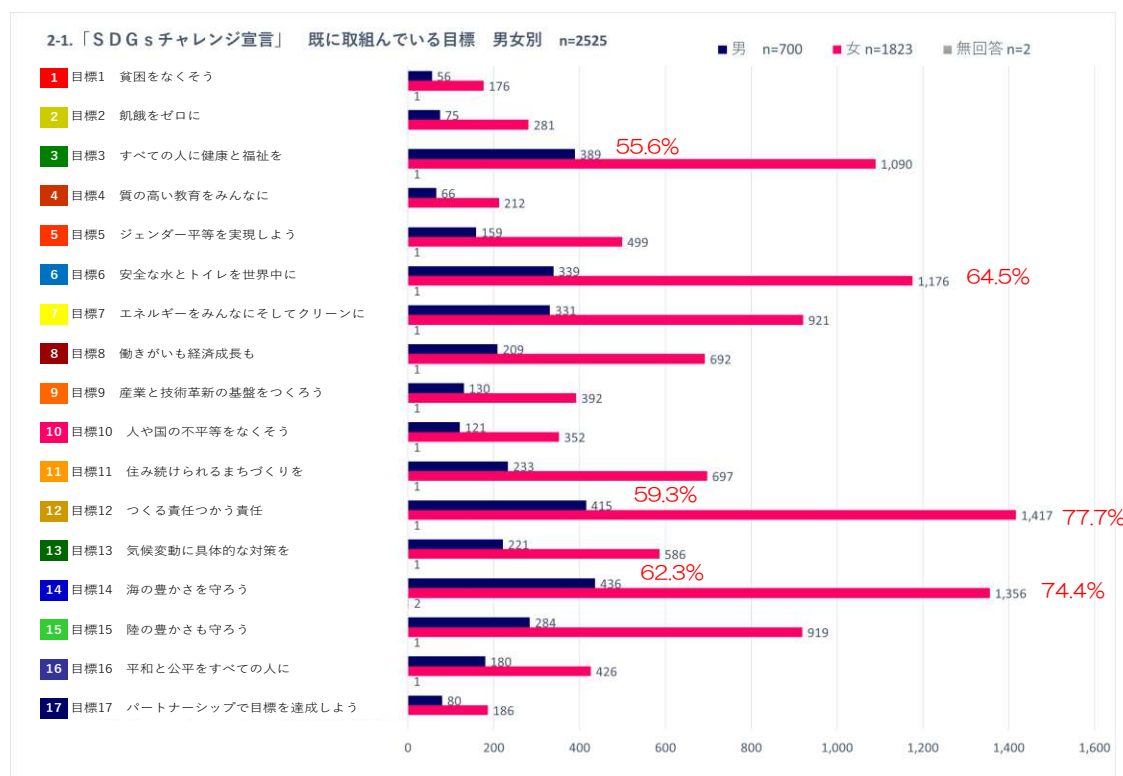
「目標 2 飢餓をゼロに」(973 人/38.5%) が最も多く、次いで「目標 1 貧困をなくそう」(813 人/32.2%)、「目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう」(665 人/26.3%)となりました。また、上位5位までの目標を見ても、今まで取組んでいる目標とは全て異なっており、新たな目標にチャレンジしようとする意欲が窺えるとともに、「目標 2 飢餓をゼロに」や「目標 1 貧困をなくそう」が上位となったことから、社会的弱者に対する支援への関心の高さも窺えます。

2. 男女別にみる「SDGs における 17 の目標」について

(1)「既に取り組んでいる目標」

男性は、「目標 14 海の豊かさを守ろう」が最も多く、

女性は、「目標 12 つくる責任つかう責任」が最も多い。(複数回答)

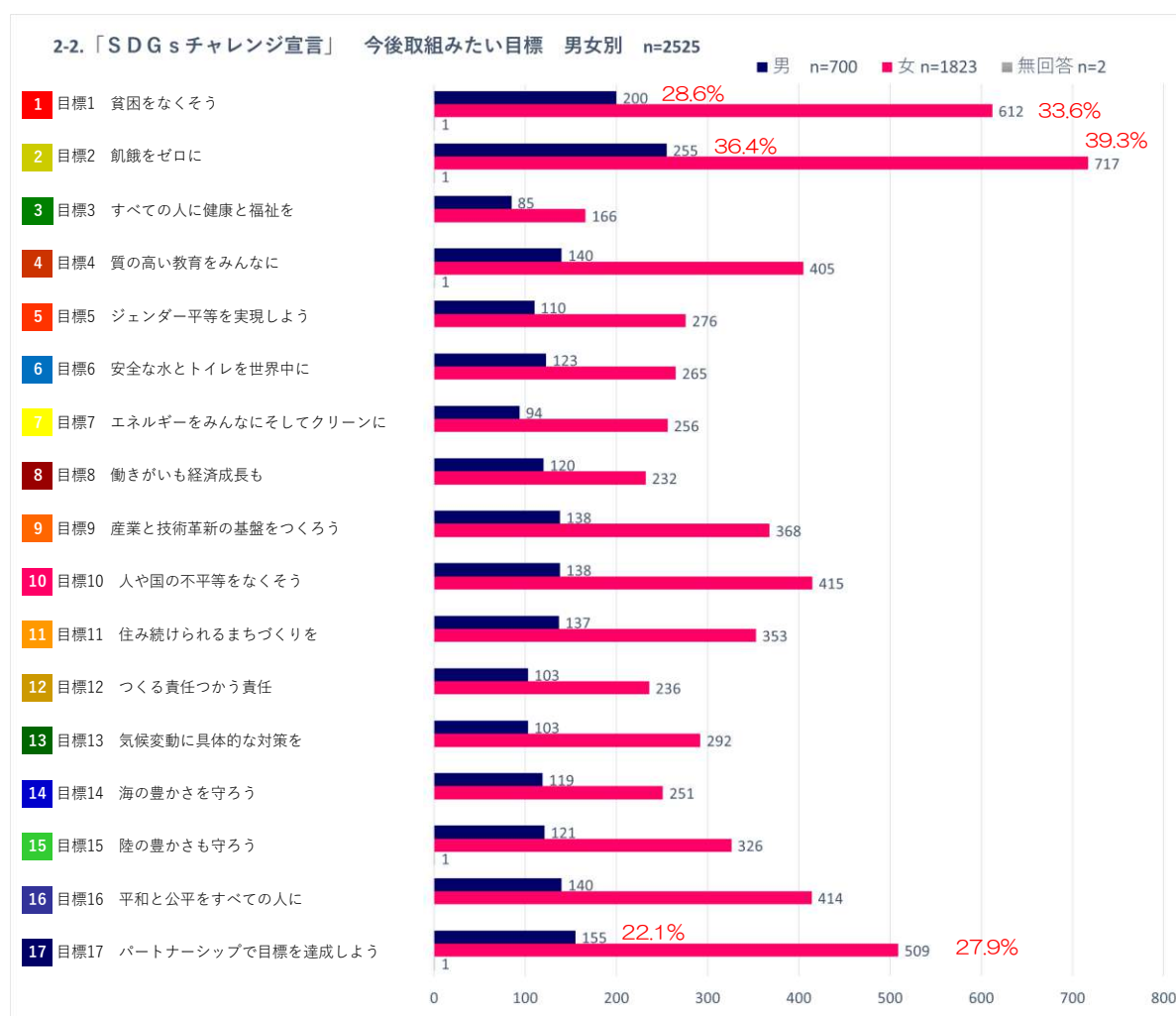


男女別では、男性は「目標 14 海の豊かさを守ろう」(436 人/62.3%)が最も多く、次いで「目標 12 つくる責任つかう責任」(415 人/59.3%)、「目標 3 すべての人に健康と福祉を」(389 人/55.6%)となりました。

女性は、「目標 12 つくる責任つかう責任」(1,417 人/77.7%)が最も多く、次いで「目標 14 海の豊かさを守ろう」(1,356 人/74.4%)「目標 6 安全な水とトイレを世界中に」(1,176 人/64.5%)となりました。

(2)「今後取り組みたい目標」

男性、女性ともに、「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多い。(複数回答)



男女ともに「目標 2 飢餓をゼロに」(男性 255 人/36.4%、女性 717 人/39.3%)が最も多く、次いで「目標 1 貧困をなくそう」(男性 200 人/28.6%、女性 612 人/33.6%)、「目標 17 パートナリシップで目標を達成しよう」(男性 155 人/22.1%、女性 509 人/27.9%)となり、上位 3 位までの目標においては、性別の違いによる差異は見られませんでした。

3. 年齢別にみる「SDGs における 17 の目標」について

(1) 「既に取組んでいる目標」

20 代以下～50 代は、「目標 12 つくる責任つかう責任」

60 代は、「目標 12 つくる責任つかう責任」「目標 14 海の豊かさを守ろう」

70 代～80 代以上は、「目標 14 海の豊かさを守ろう」が最も多い。(複数回答)

	1 位	2 位	3 位
20 才以下	目標 12 つくる責任つかう責任 (56 人/77.8%)	目標 14 海の豊かさを守ろう	目標 3 すべての人に健康と福祉を
30 代	目標 12 つくる責任つかう責任 (63 人/74.1%)	目標 3 すべての人に健康と福祉を	目標 14 海の豊かさを守ろう
40 代	目標 12 つくる責任つかう責任 (156 人/72.2%)	目標 14 海の豊かさを守ろう	目標 3 すべての人に健康と福祉を
50 代	目標 12 つくる責任つかう責任 (272 人/77.7%)	目標 14 海の豊かさを守ろう	目標 3 すべての人に健康と福祉を
60 代	目標 12 つくる責任つかう責任 (491 人/75.1%) 目標 14 海の豊かさを守ろう (491 人/75.1%)		目標 3 すべての人に健康と福祉を
70 代	目標 14 海の豊かさを守ろう (600 人/73.3%)	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 6 安全な水とトイレを世界中に
80 代以上	目標 14 海の豊かさを守ろう (226 人/68.7%)	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 6 安全な水とトイレを世界中に

年代別では、20 代以下、30 代、40 代、50 代、60 代において、「目標 12 つくる責任つかう責任」が最も多くなり、現役世代として自分自身の役割と行動への意識の高さが窺えます。

また、60 代、70 代、80 代以上では「目標 14 海の豊かさを守ろう」が最も多くなっており、自然に対する取組みに関心が高い傾向にあります。(6 ページ「グラフ 3-1」参照)

(2) 「今後取組みたい目標」

20 代以下から 80 以上の全年代で、「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多く、

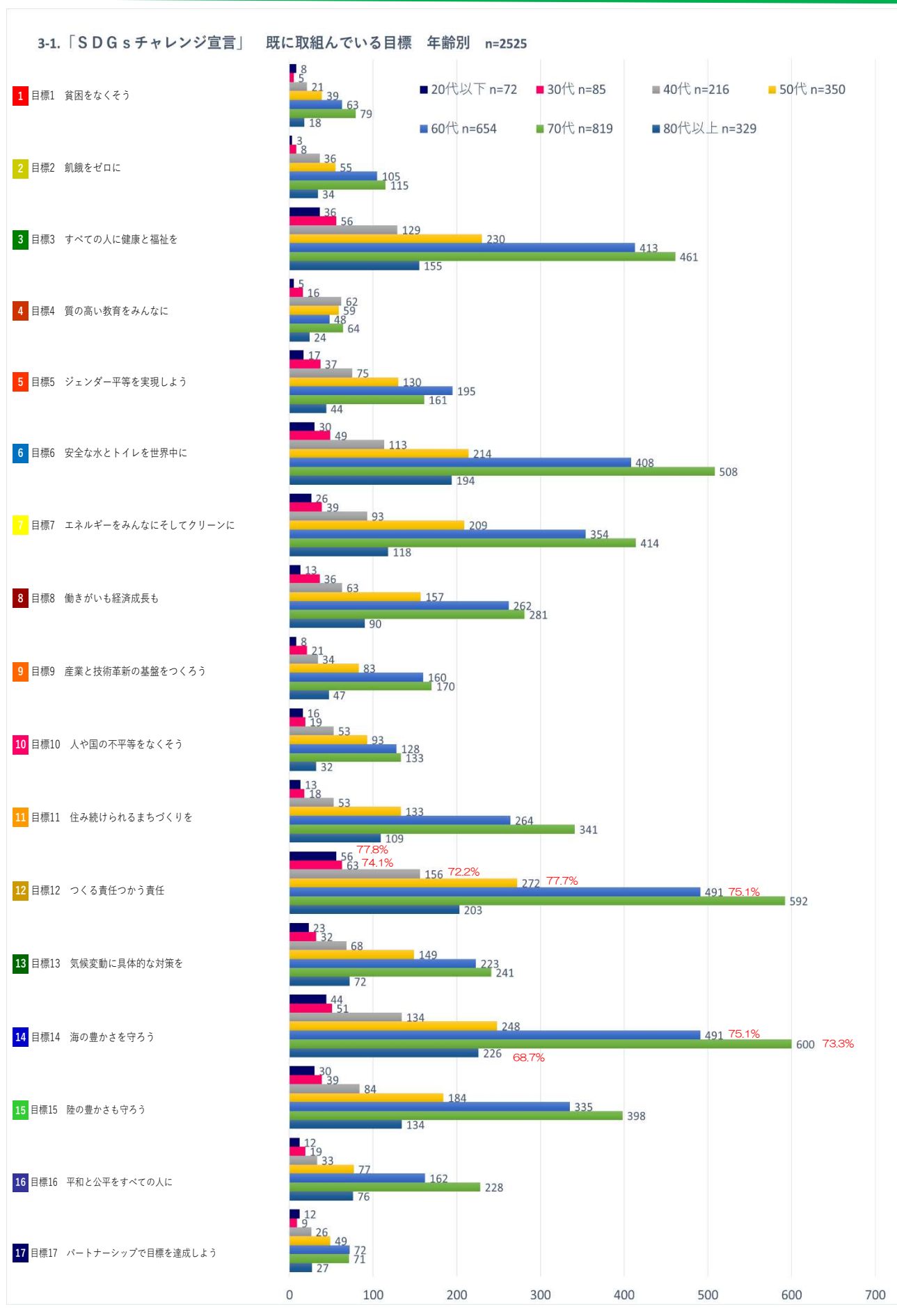
次いで「目標 1 貧困をなくそう」となった。(複数回答)

	1 位	2 位	3 位
20 才以下	目標 2 飢餓をゼロに (34 人/47.2%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 4 質の高い教育をみんなに
30 代	目標 2 飢餓をゼロに (48 人/56.5%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう
40 代	目標 2 飢餓をゼロに (89 人/41.2%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 11 住み続けられるまちづくりを 目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう
50 代	目標 2 飢餓をゼロに (162 人/46.3%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 16 平和と公平をすべての人に
60 代	目標 2 飢餓をゼロに (270 人/41.3%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう
70 代	目標 2 飢餓をゼロに (288 人/35.2%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう
80 代以上	目標 2 飢餓をゼロに (82 人/24.9%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 10 人や国の不平等をなくそう

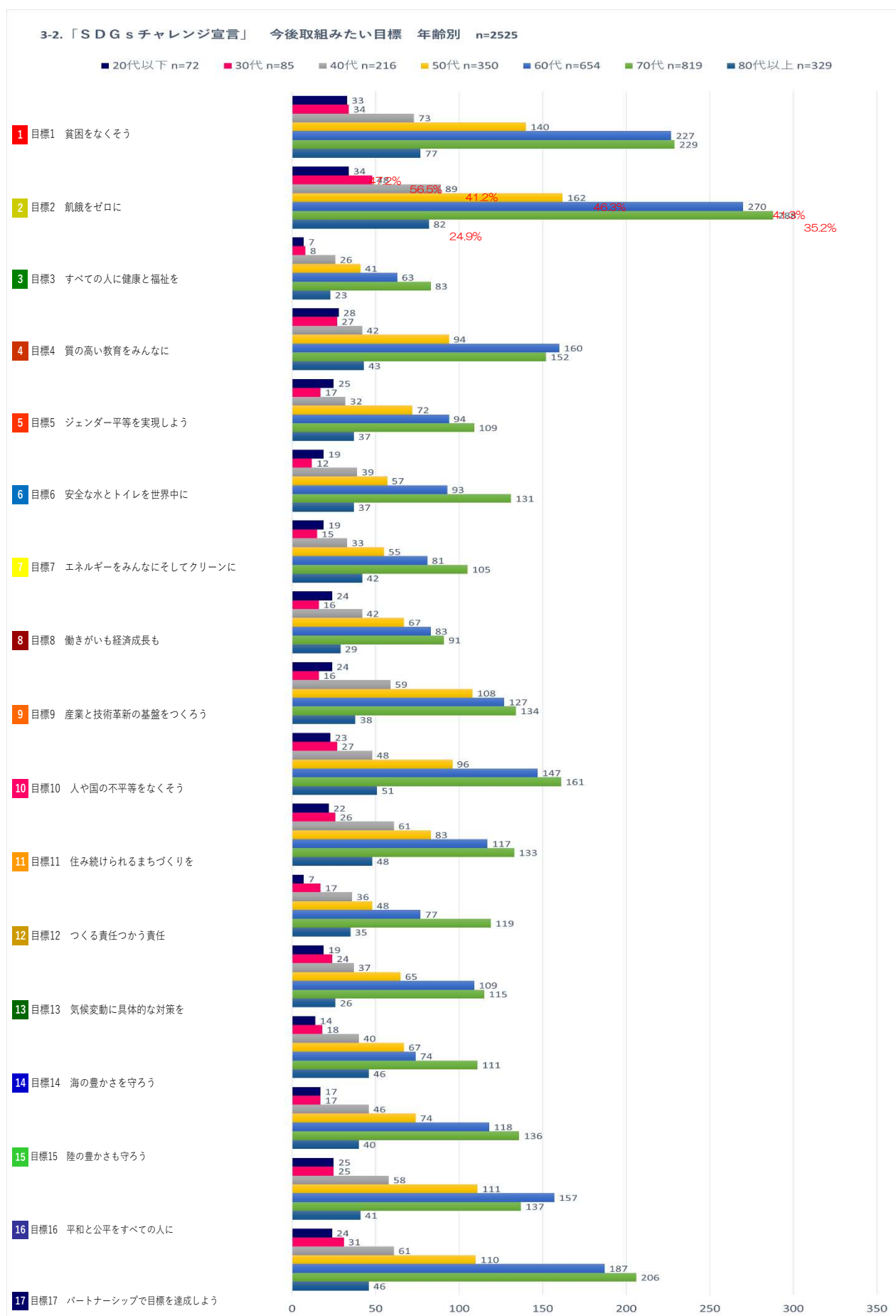
年代別にみると、全年代で「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多く、次いで「目標 1 貧困をなくそう」となりました。また、30 代、40 代、60 代、70 代では「目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう」に対する関心も高く、共に協調し課題を解決していくことに関心が高い傾向にあります。

20 才以下や 40 代では「目標 4 質の高い教育をみんなに」や「目標 11 住み続けられるまちづくりを」が上位に入り、ライフサイクルに関連した目標に関心が高いことも窺われました。(7 ページ「グラフ 3-2」参照)

せいしん「SDGs チャレンジ宣言」レポート



せいしん「SDGs チャレンジ宣言」レポート



4. 職業別にみる「SDGs における 17 の目標」について

(1) 「既に取組んでいる目標」

職業別では、会社員・公務員・学生が「目標 12 つくる責任つかう責任」が最も多く、法人役員・自営業・主婦・年金受給者は「目標 14 海の豊かさを守ろう」が最も多い。
(複数回答)

	1 位	2 位	3 位
会社員	目標 12 つくる責任つかう責任 (379 人/74.0%)	目標 14 海の豊かさを守ろう	目標 3 すべての人に健康と福祉を
法人役員	目標 14 海の豊かさを守ろう (179 人/62.7%)	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 3 すべての人に健康と福祉を
自営業	目標 14 海の豊かさを守ろう (107 人/69.0%)	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 3 すべての人に健康と福祉を 目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
公務員	目標 12 つくる責任つかう責任 (40 人/88.9%)	目標 3 すべての人に健康と福祉を	目標 14 海の豊かさを守ろう
主婦	目標 14 海の豊かさを守ろう (620 人/77.9%)	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 6 安全な水とトイレを世界中に
年金受給者	目標 14 海の豊かさを守ろう (451 人/68.0%)	目標 12 つくる責任つかう責任	目標 6 安全な水とトイレを世界中に
学生	目標 12 つくる責任つかう責任 (25 人/78.1%)	目標 3 すべての人に健康と福祉を 目標 14 海の豊かさを守ろう	

職業別では、会社員・公務員・学生の方々は「目標 12 つくる責任つかう責任」が最も多く、法人役員・自営業・主婦・年金受給者の方々では「目標 14 海の豊かさを守ろう」が最も多くなりました。

また、主婦・年金受給者の方々においては、他の職業に比べ「目標 6 安全な水とトイレを世界中に」に対する関心が高く、自営業の方々は「目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に対する関心も高いことが窺えました。(9ページ「グラフ 4-1」参照)

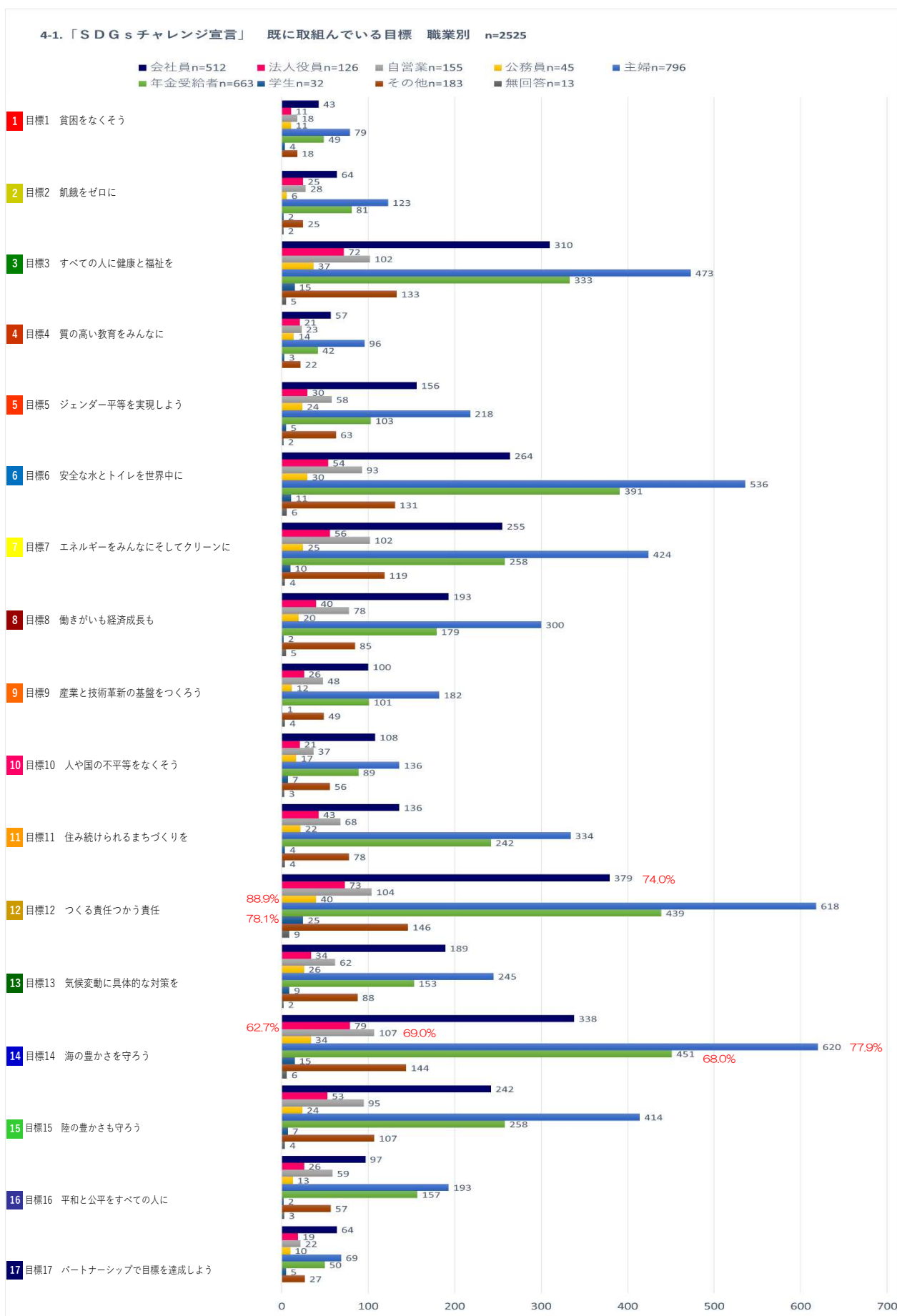
(2) 「今後取組みたい目標」

職業別では、学生を除くすべての職業で「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多く、次いで「目標 1 貧困をなくそう」が多くなった。(複数回答)

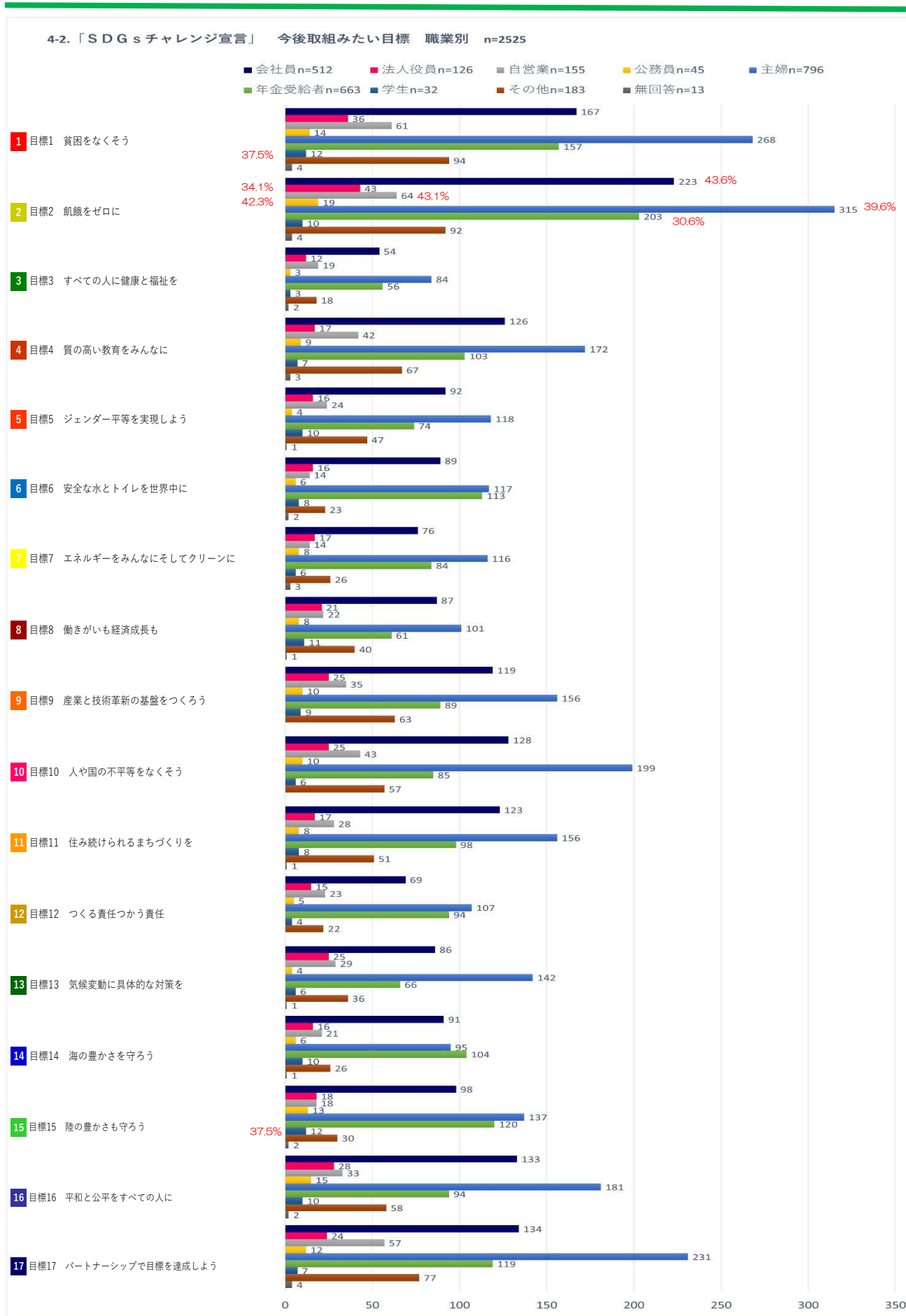
	1 位	2 位	3 位
会社員	目標 2 飢餓をゼロに (223 人/43.6%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう
法人役員	目標 2 飢餓をゼロに (43 人/34.1%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 16 平和と公平をすべての人に
自営業	目標 2 飢餓をゼロに (64 人/43.1%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう 目標 16 平和と公平をすべての人に
公務員	目標 2 飢餓をゼロに (19 人/42.3%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう
主婦	目標 2 飢餓をゼロに (315 人/39.6%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう
年金受給者	目標 2 飢餓をゼロに (203 人/30.6%)	目標 1 貧困をなくそう	目標 15 陸の豊かさを守ろう
学生	目標 1 貧困をなくそう (12 人/37.5%) 目標 15 陸の豊かさを守ろう (12 人/37.5%)		目標 11 住み続けられるまちづくりを

学生を除くすべての職業で「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多く、次いで「目標 1 貧困をなくそう」となりました。また、会社員、自営業、主婦の方々は「目標 17 パートナースHIPで目標を達成しよう」への関心が高く、法人役員、公務員では、「目標 16 平和と公平をすべての人に」への関心が高い傾向にあります。学生においては、「目標 1 貧困をなくそう」への関心が高い一方で、「目標 15 陸の豊かさを守ろう」への関心も高くなりました。(10ページ「グラフ 4-2」参照)

せいしん「SDGs チャレンジ宣言」レポート



せいしん「SDGs チャレンジ宣言」レポート



5. 具体的な SDGs への取組み（フリーアンサー）

〔日常生活の中での取組み〕

今回の「SDGs チャレンジ宣言」では、既に取り組んでいる目標として、「目標 12 つくる責任 つかう責任」が最も多く挙がりました。この「目標 12」に沿った具体的な取組みとしては、使い捨ての習慣をやめ無駄を無くそうとする「つかう側」の意識の高さが窺えました。

- ・マイバック、マイスプーン、マイフォーク、マイボトルを利用しています。
- ・買い物は簡易包装の物を選ぶようにしています。
- ・持ち帰りの弁当に付いてくるお箸やお手拭き等はいれないようにお願いしています。

使い捨ての習慣を無くすことは「ゴミの削減」や「リサイクル」、また「資源を大切に使うこと」への意識へも繋がっており、日常生活の中で直ぐに、そして簡単に取り組める内容が多く聞かれました。また、「日常生活において当たり前に行っていることが『SDGs の 17 の目標』に繋がっていることに気付いた」との声も同時に聞かれました。

- ・生鮮食品や残り物を冷凍し長期保存を心掛けフードロスをなくすようにしています。
- ・食品ロスの削減、フードドライブの促進を心掛けています。
- ・食料品は食べきれぬ分しか作らず、残渣が出ないように努めています。
- ・賞味期限が近い物を優先的に購入しています。
- ・常に再利用を心掛け、資源ごみの分別をしています。
- ・コピー用紙等の裏面利用(両面印刷等)で紙の無駄をなくしています。
- ・ゴミを増やさないう、よく考えて購入しています。
- ・トレイ、牛乳パックはリサイクルするためにスーパーに持ち込んでいます。
- ・新聞、段ボール、雑誌等は自治会で回収し資源ごみとして出しています。
- ・子どもにも積極的にリサイクルをするよう促しています。
- ・省エネ電気機器などを利用して省エネに取り組んでいます。
- ・節電、節水等の努力をしています。
- ・お風呂の残り湯、台所の余った水を植物の水やりに使用しています。
- ・節水シャワーヘッドに交換するなど、水を大切に使っています。
- ・可能な限り自動車は使わないようにしています。

〔地域の人々との取組み・その他の取組み〕

日常生活における個々の取組みがなされる一方で、地域の人々と共に取り組むケースもみられました。「SDGs」に対する取組みは、様々なかたちで広がりをみせていることが分かります。

- ・ビーチクリーンに参加しています。
- ・振込め詐欺の講習等に参加したいです。
- ・高齢者対象の「SDGs 講座」を企画しています。
- ・異文化の方々との交流を積極的に進め、文化紹介や日本語指導などを通じ、静岡の街に親しんでもらえるように支援をしています。
- ・交通指導員をしています。今後、地域の方々にもこの活動を勧めたいと思います。
- ・地産地消を心掛けています。
- ・フェアトレードの商品を積極的に購入しています。

また、今回の「SDGs チャレンジ宣言」では、「今後取組みたい目標」として「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多い目標となりましたが、この目標における具体的な取組みとしては、以下が挙げられました。

- こども食堂に寄付をしています。
- 「せいしんフードドライブ」へ参加しました。
- 「せいしんフードドライブ」など出来ることから始めていきます。

当金庫では創立 100 周年事業の一環として、家庭等で眠っている食料品の寄付運動「せいしんフードドライブ」を、2021 年 5 月、11 月の 2 回に渡り全店舗で実施し食料品の受付をいたしました。期間中はのべ 2,829 名の方々にご参加をいただき、食料品 2,045 kgの寄付をいただきました。

このような「フードドライブ」に誰もが気軽に参加できる機会を設けたことが、多くの方々の興味や関心に繋がり、今後取組みたい目標として「目標 2 飢餓をゼロに」が最も多くなった一因とも推測されます。

今後も、当金庫は「SDGs」における更なる取組みを、地域の方々と共に継続して参ります。

以上

(静清信用金庫 営業推進部 2022.3.2 作成)